

オンキヨーホームエンターテイメント株式会社 事業紹介③ ヒアリングデバイス事業 「ヒアリングデバイス事業 その1」について

オンキヨーホームエンターテイメント株式会社は、2021年1月29日付「当社グループのご紹介について」でご説明の通り、ホームシアターやオーディオを主とした「ホーム AV 事業」、ヘッドホンを中心とした「ヒアリングデバイス事業」、そしてゲーム周辺機器の「ゲーミング事業」を主たる事業ドメインとしております。その中の「ヒアリングデバイス事業」は、下記の3つのカテゴリで構成されております。

- ① 補聴器、聞こえサポート商品（ヒアリングサポート商品）
- ② 家庭用電話機
- ③ ヘッドホン・イヤホン商品（後日、「ヒアリングデバイス その2」でご紹介予定）

今回は①補聴器、聞こえサポート商品（ヒアリングサポート商品）と②家庭用電話機についてご紹介いたします。

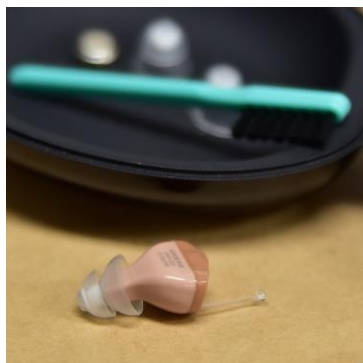
① 補聴器、聞こえサポート商品（ヒアリングサポート商品）

当社は、高齢化社会を迎えている日本市場において、シニア向けの補聴器や聞こえサポート商品などのヒアリングエイド商品に注力しております。総合オーディオメーカーとして長年に渡り音響機器の開発で培ってきた数々の技術と経験を心地よい音楽の再生にとどまらず、聞こえについてお困りのお客様の日々の暮らしのサポートにも活かしたいという思いから補聴器と聞こえサポートの集音器などヒアリングサポート商品を提案しております。

補聴器市場の月別補聴器出荷台数は、緊急事態宣言直後の5月には前年比5割台に落ちたものの、10月以降は前年比プラスに回復しております。これは新型コロナの感染拡大により、在宅勤務やリモートワークが増えてオンラインのWeb会議のPCの小さなスピーカーでは相手の声が聞き取りにくいといったことや、人と会う場合でもマスクを着用した会話やビニールシート越しでの会話では相手の声がこもった小さな声になりがちで、聞き取りにくいということなどからお客様の補聴器などのヒアリングサポート商品に大きな関心が集まったためではないかと考えております。

快適な聞こえで日常生活の安心をサポートする医療機器である補聴器は、オンキヨー、パイオニア両ブランドで展開しております。オンキヨーの補聴器は、耳あな型補聴器「OHS-D21-L/R」と耳かけ型補聴器「OHS-EH21」のラインナップで、コロナ禍におけるお客様の聞こえサポートへの関心の拡大により、2020年2月-2021年1月の一年間の出荷台数が対前年に比較して約300%UPとたいへん好調に推移しております。

またパイオニアの軽度難聴者用の耳あな型補聴器「PHA-C11」は2013年4月の発売以来、今日まで続くロングセラー商品で、安定した品質を誇っています。



OHS-D21-L/R



OHS-EH21

また、特別な調整や検査を必要としない手軽さで、手軽に日常生活での聞こえをサポートするパイオニアブランドの集音器（ボイスモニタリングレシーバー）“フェミミ”シリーズは、1998年9月の初号機導入開始から既に22年を超えるロングセラーのシリーズで、約40万台の累計出荷実績を持ち、周囲の音声を集音し、クリアに再生するため「音量をあまり上げずにテレビを楽しみたい」「人の声を明瞭に聞き取りたい」といった多くの方々にご利用いただいています。



フェミミには両耳用イヤホンマイクタイプのVMR-M750と耳穴タイプのVMR-E50の2つがあります。両耳用イヤホンマイクタイプは左右のイヤホンに装備した集音用マイクにより、音声を左右の耳元で集音するので自然な“聞こえ”を実現します。一方、耳穴タイプは耳に収まるコンパクトサイズで本体重量1g（電池を除く）と軽量で煩わしいコードもなく、目立ちにくいので、人との会話でも相手の違和感が少なく、またコロナ禍でマスクの着用時にもコードが邪魔になりません。また、両タイプともに、これまでの“フェミミ”で培ってきたデジタル処理技術を結集し、周囲の雑音を抑制する雑音抑制機能、ピーピー音（ハウリング）を抑制するハウリング抑制機能を強化することで、音声をクリアに聞き取りやすいため、日常のさまざまなシーンで快適に使用できます。

パイオニアブランドには集音器（ボイスモニタリングレシーバー）“フェミミ”の他にも、テレビの音をお手元でしっかり聞くことができるワイヤレススピーカーシステム“快テレ君”などがあります。テレビから離れたところでもコードに邪魔されずに楽しめるデジタル無線伝送方式を採用し、テレビの音量を上げなくても家族と一緒にテレビを楽しめます。



両耳用イヤホンマイクタイプ
VMR-M750



耳穴タイプ集音器
VMR-E50



“快テレ君”
VMS-S710

② 家庭用電話機

パイオニアの電話機の歴史は1985年に当時の電電公社民営化に伴い民間に開放された電話機市場に参入したことから始まりました。以来日本市場に特化して家庭用の電話機事業を継続し、特にコードレス電話機では数々の画期的な商品を展開してきました。現在は1.9GHz帯のデジタルコードレス電話向けのJ-DECT技術を採用した家庭用コードレス電話機を開発導入しております。

携帯電話が主流となり、世界的には固定電話機市場サイズは大幅に縮小していますが、唯一日本は例外で2019年も固定電話の加入契約者数は依然5,300万契約を上回る数で対前年-1.4%の微減で推移しております。（総務省、令和二年情報通信白書より）この中でも当社の参入するコードレス電話機市場は、FAX電話からの買替需要もあり、堅調に推移しております。これは高齢化社会の進み中で、緊急事態に備えた自宅の固定電話の重要性は引き続き変わらないためと考えられます。ネット社会になっても固定電話は変わらぬ簡単操作の安心感があり、携帯電

話番号だけでなく、固定電話番号を引き続き持ち続けたいという日本の国民性からくるものと思われます。現在、国内で家庭用電話機を導入しているのは当社を含めて3社のみとなっております。J-DECT方式の浸透で新たな技術革新はひと段落していますが、オレオレ詐欺の防止機能である着信時に相手に対し自動で警告メッセージを流し、応答すると自動で録音を開始する”おまかせガード”機能や受話器の音声をワンタッチで「はっきりとした」「大きい音」へ変更する”はっきり大音量”機能等、超高齢化社会を迎える日本においてニーズはまだまだ健在で、当社は引き続き家庭用電話機事業を継続して参ります。



TF-SA36S

参考 URL

* 1 : 当社グループのご紹介について (2) オンキヨーホームエンターテイメント株式会社

https://onkyo.com/ir/ir_news/date/2020/20210129_JQIR_gaiyousetsumei_OHE.pdf

* 2 : 令和 3 年(2021 年) 日本補聴器工業会

<http://www.hochouki.com/information/20210107-62/>

* 3 : 総務省 令和二年情報通信白書

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r02/html/nd252210.html>

* 「Pioneer」および「Pioneer」ロゴはパイオニア株式会社の商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

* J-DECT は、DECT Forum の商標です。

* J-DECT のロゴは ARIB STD-T101 に準拠した 1.9GHz 帯の無線通信方式を採用した機器であることを示しており、同一ロゴを搭載する機器間での接続可否を示すものではありません。

* その他文中の商品名、技術名、機能マークおよび会社名等は、当社や各社の商標または登録商標です。